

# 若いなかま

若いなかま No.203  
2018 (平成30)年 11月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議  
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F  
TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003  
E-mail: net.y.d@isis.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://www.fayd.jp/



## 目次

表紙	1	第20回 福岡県青少年囲碁大会	6
異年齢交流で育て！青少年 (育成キャンプ)	2・3	家庭の日・オアシス運動	7
第40回少年の主張 福岡県大会	4・5	「青少年育成 考」、その他	8

### (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)



**平成30年度**  
**異年齢交流で**  
**育て！青少年**  
**＝自ら学ぼう！育とう！**  
**青少年育成キャンプ＝**  
**＝ところ**  
 平成30年8月1日(水)から5日(日) 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市一の宮町)

本年度で36回目を迎える「異年齢交流で育て！青少年」(以降、育成キャンプ)は、仙酔峡の麓にある国立阿蘇青少年交流の家で実施しました。  
 参加者は小学5年から中学3年生63名とOB高校生・大学生等スタッフ等総数85名が様々なプログラムにチャレンジしました。子ども達の主な活動を報告します。

◆8月1日(水)県庁前の東公園で出発式。高校生や大学生スタッフによる受付では、どの子ども達も少々不安な様子で名札と帽子を受け取っていました。出発式では、赤尾青少年育成課長等から激励や諸注意を受けた後、バス2台に分乗し出発。約3時間で広大な自然広がる阿蘇に到着しました。

一日目の主な活動は、入所式、班旗作成、テント設営と野外炊飯です。特にテント設営と野外炊飯は自分達で寝床と食事を作るといふ「育成キャンプ」の重要な取り組みです。OB高校生・



大学生ボランティアとサポーターの指導の下、悪戦苦闘しながら、自分達の力で完成させていました。炊飯は、4回あり「調理・配給」「薪」「配膳・後片づけ」「洗浄」の係を全員経験します。この体験が大事です。「食事をやる」一連の作業が如何に大変で、日頃家族に守られている「有り難さ」を実感できるのです。みんなで作った「初カレー」は、とても美味しく代わりする子が大変多かったです。また、片付けも高校生リーダーの指導のもとテキパキと早く終わりました。

◆8月2日(木)沢登りのプログラムを2つのグループに分かれて行いました。沢登りの場所は交流の家からバスで15分の距離にある国造神社横の宮園川です。ライフジャケットとヘルメットを付け、班毎のグループになり川を上ります。水量は想像以上に多く、場所によっては立ってられない程流れが速い水量です。子ども達はインストラクターの誘導に従って上りました。冷たくて綺麗な水に「きやー、きやー」と歓声を上げていた子ども達も上流に進むにつれて「大丈夫？」「その岩は滑るよ」「体を支えて

ハイク」のプログラムが行われました。「集いの火」は、「育成キャンプ」に参加している意味や今までの自分の言動を振り返り、残りのキャンプ期間をどのように行動するか正副班長を中心に話し合うものでした。キャンプ場全ての明かりが消え、虫の声とたき火の音しか聞こえない静けさの中で、自らの言動を見つめました。子ども達は非日常的な空間で心安らかに話し合った経験は貴重なものとなりました。

一方、「ナイトハイク」は、交流の家から仙酔峡登山道路の途中まで暗闇を歩き道に寝ころんで満天の星空を観察する「自然プラネタリウム」鑑賞のプログラムです。子ども達は登る夜道を歩いて行くと、



◆8月3日(金)杵島岳登山にチャレンジしました。登山口の草千里までバス2台で移動しました。途中、被災した道路の復旧工事のため少々遠回りしましたが、9時40分には登山を開始しました。杵島岳を始め阿蘇山周辺の山は、火山の影響で木々が茂ったところは少なく膝の高さ位の草が生えています。



従って、木陰がありませんが見晴らしは申し分ありません。整備された登山道は階段状に作られ急な登り坂が続きます。約1時間かけて上ると草千里ヶ浜や中岳、国道57号線が通る阿蘇市等の絶景のパノラマが目に見え込んできました。子ども達は「きつかったけれど、登って良かったー！」と。頂上は、結構風がありゆつくり休憩。記念写真をとり、眼下のパノラマを見ながら下山となりました。

キャンプ場に帰って、食器等の収納点検がありました。「育成キャンプ」の点検は「使う前より美しく」「次に使う人のこ





とを考えて」をモットーにして綺麗にする方法も含めて指導します。どの班も「洗浄」「細かな所の洗浄」「拭き上げ」「仕上げ」「自己点検」「数の確認」の係に別れて行いました。中には、びっくりするくらいにピカピカに仕上げている班もありました。次々と交流の家の職員の方から「合格！」の声。「とても綺麗にして頂いて感謝します」との言葉も頂きました。

ピザ・パン作りのプログラムを行いました。作り方の説明を聞き、全て自分たちで作ります。班の様子を見ると、難しい所の作業は年長の子ども達が行い、そうでない所は年少の子ども達に作業経験を行わせ「疲れたら、言いよ」「疲れたら交代するよ」等の声を掛け合っていました。生地を作り、捏ねて、天日で発酵させた後、たつぷりとピザソースを塗り、チーズやベーコン等の具材を沢山載せて、ふっくらとても美味しいピザが焼き上がりました。班毎に「にこにこ」顔で美味しく食べました。

◆8月4日(土)この日のプログラムは、「水基巡り」です。朝九時に交流の家を徒歩で出発しました。気温は阿蘇とはいえ既に35度を超えています。水分補給と休憩を繰り返しながら、約1時間かけて全員無事に阿蘇神社に到着しました。阿蘇神社で



は権禰宜の芹口さんから熊本地震の被害や復興に向けての状況をお聞きし、とても勉強になりました。その後、「フィールドビンゴ」を使つてのゲームを楽しみました。「フィールドビンゴ」の用紙には、わき出ている水の写真と関係する質問の答えを記入するところがあります。子ども達は班毎に、わき水を探しながら答えを記入していきました。途中で久しぶりのアイスクリームやジュースに堪能しながら、ゆつくりとした時間を楽しんでいました。

最後の夜にお別れ集会のプログラムがありました。短時間の中、班毎に考えた劇や歌等工夫を凝らした出し物が披露されました。司会は、青年ボランティアが行い、高校生リーダーや班長達の出し物もありました。みんな最後の夜を愉快地楽しく過ごしました。終わりには、班長から高校生リーダーへお世話をした頂いた感謝の言葉を述べました。子どもの中には「はじめは恥ずかしかったけど、思い切つて出て、楽しかったので良かったです」「最初はどうなるのか分からなかったけれど、みんなが楽しんでいたので良かったです」等の感想が聞かれました。

◆8月5日(日)「育成キャンプ」最終日。主な活動は退所式と解散式です。これまで、様々なプログラムにチャレンジし、協力し克服してきました。特に、炊飯の片付けは交流の家の職員の方々もびっくりする位に綺麗に片付けました。これは、地味な活動ですが一番大事なところだと思います。退所式の時も職員の方が「これほど協力し綺麗に返納頂いた団体はない。感謝します」との言葉にも表れています。



解散式では、家族の方々が迎えに来てくれていました。改めて、家族の有り難さ、感謝を感じる「育成キャンプ」でしたね。お疲れ様でした。皆さん、この貴重な体験をこれからの生活に活かしてほしいと思います。

◆さて、「育成キャンプ」事業をふり返ると今年も様々な理由でキャンプに参加した子ども達が多いです。「このキャンプで学ぶことはとても多く、行かないと絶対後悔すると思った。今年は昨年よりもっと班の人と協力して、もっと楽しんで最高の夏のキャンプの思い出を作りたいです」等の積極的な子ども達が多いようです。また、保護者は「家族や便利な生活から離れて生活し、異年齢の中で意思疎通を図っていけるようになってほしい」「キャンプへの参加は自信に繋がりがその気持ちや意欲にもなつてキッチンとした生活、学習週間が身に付いていると実感し、再度参加させたい」等の声が寄せられています。

スタッフ一同は、この様な参加者や保護者の期待に応え、「参加するだけのキャンプ」ではなく、プログラム活動や人間関係等を通じて子ども達の健全な成長を促し「心に残る」出来事にしたと話していました。「育成キャンプ」終了一ヶ月後、「子どもの成長にびっくりしました。参加させて良かったです。積極的にになりました」と保護者からの感想が寄せられています。

FFG 福岡フィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

福岡銀行





わたしの  
主張  
2018

# 第40回少年の主張福岡県大会

## ～いま、中学生が訴えたいこと～

とき 平成30年9月8日(土) ところ ミリカローデン那珂川文化ホール(筑紫郡那珂川町)



川町登録手話通訳の皆さんの協力が進められた。審査を待つ間、那珂川、那珂川南、那珂川北の各中学校合同の吹奏楽「風になりたい」をはじめ、那珂川町少年少女合唱団による「怪獣のパレード」やビデオ上

昭和54年の国際児童年を契機に始まった「少年の主張大会」は、今年で40回を迎えた。開催地の筑紫郡那珂川町は、福岡県西部に位置し、南部には背振連山が広がり、四季を通して自然あふれる町である。本年10月に市制施行された。

開会にあたり、主催者の(公社)福岡県青少年育成県民会議の長井政典会長は、アップル創業者のステイブジョブズ氏の言葉「ハングリーであれ」、「愚か者であれ」を引用し、「この言葉がなぜ世界の人々の心を打ったか。それは自分の人生を正直に語り、人生には希望があるのだ」ということを伝えたからではないか。今日、スピーチをされる皆さんにも自分の言葉で正直に話して戴きたい」と激励の言葉があった。続いて開催地を代表して那珂川町青少年育成県民会議の瀬口俊光会長の挨拶、小川洋福岡県知事(代読)、武末茂喜那珂川町長より祝辞を戴いた。

司会は、那珂川町立那珂川南中学校放送部の神代こころさん、末弘実莉矢さん、吉廣京香さん、宇田菜々子さんから4名の発案とした進行と、那珂川町登壇手話通訳の皆さんの協力が進められた。審査を待つ間、那珂川、那珂川南、那珂川北の各中学校合同の吹奏楽「風になりたい」をはじめ、那珂川町少年少女合唱団による「怪獣のパレード」やビデオ上

※次回開催は、  
2019年9月7日、  
田川市、田川文化センター  
で行われる予定。

映「那珂川よかとこ発見隊」で和やかな時を過ごした。今回、県下の中学校から一万点を超える作品の応募があり、厳正な審査を経て最終選考に残った16名の発表は、中学生の日常を通して感じたこと、現代社会への問題提起など多岐にわたり、それぞれに個性ある内容であった。

審査の結果、福岡県知事賞、福岡県教育委員会賞、那珂川町長賞、優秀賞第一席、審査委員会特別賞の5名、優秀賞11名が選ばれた。

福岡県知事賞には、「かけがえのない生命」と題して、障害のある妹を家族で見守る喜びを通して、より命の大切さを実感し「出生前診断」への疑問を率直に語った、柳川市立柳南中学校3年、大村朋生さんが選ばれた。

11月11日に東京都で開催される「少年の主張全国大会」に福岡県代表として推薦された。



### 優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
中村 稟	修学旅行で学んだこと	香春町	勾金中学校	1年
宮武 悠花	よかそこ那珂川	那珂川町	那珂川中学校	3年
鶴長 愛華	優しくて大好きな母に	久留米市	諏訪中学校	3年
現王園 京	あるものねたり	行橋市	仲津中学校	3年
荒木 李白	今に感謝	飯塚市	飯塚第一中学校	3年
真弓 結衣	努力の足跡	久留米市	田主丸中学校	1年
佐伯 美々	一票に希望を託して	飯塚市	穎田中学校	3年
新川 健悟	「違い」をどう捉えるか	飯塚市	飯塚日新館中学校	3年
中山あゆみ	嘘の時代を生き抜く	行橋市	泉中学校	3年
高木 さら	「笑顔」から「平和」をつくる	福岡市	福岡雙葉中学校	3年
佐藤 詩	原点とするもの	飯塚市	飯塚第一中学校	3年

### 講評

審査委員長  
伊藤 一義 氏

発表された16人の主張は、差別、命の尊さ、家族の問題、将来の夢など様々で、自分の身近な体験をもとに、自分の思いや悩み、苦しみ、喜びをわかりやすく訴えられ、一人ひとりの思いが会場の皆さんや審査委員の心にぐっと広がり、審査委員一同、非常に心に響き、すばらしい出来映えとの感想でした。

福岡県知事賞に選ばれました「大村 朋生」さんは、命の大切さを実感し、これからも、かけがえのない命を大切につなぎ、守っていききたいという内容で、審査委員の幅広い共感を得ました。

今回、皆さんは大変すばらしい体験をしました。これから、高校、大学、社会人へと進んでいくわけですが、今の気持ちを大切に、それぞれがリーダーとして活躍してほしいと思っております。皆さんの成長を期待しておりますので、これからも頑張ってください。



今年7歳になる私の妹は、この出生前診断で、ダウン症の疑いがあると診断されました。それを聞いた父と母は、最初、ダウン症の子を育てていく決心がつかなかったといいます。母は助産師なので、ダウン症に

命の重さと喜びを知っているからで、私は思います。なぜなら、私は、かけがえのない命の重さと喜びを知っているからで、



「かけがえのない生命」

福岡県知事賞

柳川市立柳南中学校3年 大村朋生 (全国大会推薦者)

皆さんは、出生前診断を知っていますか。出生前診断とは、ダウン症などの遺伝性疾患や生まれつき体に行うことです。この検査によって何らかの疾患があると確定したとき、人工妊娠中絶を選んだ人の割合が、9割以上にものぼったという話を聞きました。このような結果になったのは、その診断の意味と障害者に対する理解が低いからだといえます。生まれてくるはずだった、かけがえのない小さな命の重さを考えると、簡単に奪われてしまっただけではないと私は思います。

色々な合併症が伴うことをよく知っていました。実際に様々な合併症の子どもたちを見てきたので、「自分のお腹の赤ちゃんもそうかもしれない。」と想像したと聞きました。そして、母が最も心配したのは、今までの生活が変わることでした。自分が仕事を辞めて、昼夜を問わず、子どもにつきっきり生活になる。そうすると、すでに8歳だった私と、2つ下の妹にさびしい思いをさせてしまうかもしれない。そんな考えが、母の頭をよぎったそうです。私も母の立場だったら、同じような心配をしたと思います。

しかし、母は、自分のお腹に宿っている小さな命、その命を奪うことはできないと出産することを決めました。両親は、話し合いを重ね、これからは何が起るかわからないお腹の赤ちゃんを一生懸命育てていくことを決断しました。

そうして、その8か月後、妹は大きな産声を上げて生まれてきました。その後、詳しく検査した結果、心臓の壁に穴があいていることが分かりました。ダウン症による合併症です。この心臓の穴は6歳のとき9時間にも及ぶ手術によってふさがれました。それから妹は、ゆっくりながらも順調に成長しました。そして、今年、小学校に入學し、特別支援学級で勉強しています。妹は学校から帰ってくる時、1日のできごとをうれしそうに話してくれます。妹は一生懸命話そうとしてくれるのですが、まだうまくしゃべることができないので、家族みんながクイズのような言葉を解読します。また時々おもしろい動きをしたり、歌や音楽に合わせて踊ったりして、家族や周りの人を笑わせてくれます。そのおかげで、みんなが笑顔になり、妹は家族の人気者です。成長は遅いのですが、その分、何かができるよときの喜びはとても大きいです。2歳半で初めて歩いたとき、コップでお茶が飲めるようになったとき、自分でスプーンを使って食べることができるようになったとき、など、家族で拍手をして喜びました。健康な子どもだとあたりまえにできるようなことでも、療育で訓練をして時間をかけてできるようになっていきます。その成長を家族で見守る喜びを感じています。だから、いろいろな不安を感じながらも、妹を産む決断をしてくれた両親にとっても感謝しています。妹がいない生活は考えられません。



審査委員会特別賞



行橋市立今元中学校1年 宮原秀斗

「語彙力が危ない」

優秀賞第一席



福岡教育大学附属久留米中学校2年 白石よしの

「心の声」

那珂川町長賞



久留米市立田主丸中学校2年 今村彩楓

「命をつなぐ」

福岡県教育委員会賞



柳川市立柳城中学校3年 外尾日和

「食が教えてくれたこと」





# 第20回福岡県青少年囲碁大会

日時：平成30年8月19日10時～  
場所：福岡県吉塚合同庁舎6・8階



今年の大会は第20回、記念すべき節目の大会。参加者220名、多くの参加者を得て、講師をはじめ審判等のスタッフには本大会知事杯受賞者等を配し、「先輩と後輩棋士でつくる、そして、つなぐ囲碁大会」だと長井実行委員長があいさつ。

その後、講師陣の紹介、吉田審判長の「ルール説明」があり、参加者は各会場に分かれ、終日熱戦を展開した。

## トークイベント

講師の本大会先輩アマチュア棋士にコーディネータの吉田審判長が「昔と今の会場の雰囲気の違いは？」、「どうしたら囲碁が強くなれるか？」など鋭い質問を投げかけ、それに答える形で進行。

後者の質問に、ある講師はその秘訣は「①対局②詰碁③棋譜並べ」を挙げ、長く続けるコツではライブル兼友だちである碁友を作ることや推奨していた。会場の青少年棋士も役に立つアドバイスを聞き逃すまいと彼らの話を傾聴していた。

## ふれあい囲碁教室22名

初心者対象イベント。4才児から小学4年生まで参加。宮崎講師の優しく、丁寧な遊び方の指導を受け、保護者等も加わり、楽しく、ほのぼのと

- ☆第20回大会プログラム☆
- ★開会式
  - ★県知事杯争奪戦 10時～  
小学生・中学生・高校生
  - ★異年齢交流対戦 10時～
  - ★ふれあい囲碁教室10時～12時
  - ★トークイベント  
13時00分～13時30分
  - ★大会先輩アマチュア棋士による多面打  
13時40分～15時10分
  - ★閉会式・表彰式 ★お楽しみ抽選会



大会の看板イベント。時間制限など厳格なルールでの対局。今年度は小学生15名・中学生12名・高校生7名が参加、各部門で激戦。表彰者は8月22日福岡市内で開催した「福岡県江蘇省青少年囲碁交流大会」で奮戦。囲碁を通じた青少年国際交流を实践した。

## 県知事杯争奪戦 34名

イベントも参加可能。高校生と小学生、中学生と幼稚園児など普段は機会が少ない異年齢対局がみられる。審判員が後輩棋士に優しい声掛けや質問への的確なアドバイスを随所で見かけられた。



多面打ちとの重複



した空間が生まれた。来年度は異年齢対戦に挑んでいく青少年が誕生することに期待が持たれる。

## 異年齢交流対戦 142名

上級・中級・初級のクラス別対局。初級以外はハンディー戦、クラス内では学齢等不問、人気のイベント。勝率の高い人には昇級の級位認定がある。勝数が、基準以上の成績優秀者には知事奨励賞が授与される。

### 講師・審判スタッフ

ふれあい囲碁  
宮崎智広 知事杯 中学・高校優勝  
多面打ち  
寺下龍太郎 知事杯 小学・中学・高校優勝  
立光康真 出場歴 小4から10回

副審判長  
渡邊祐介 知事杯 小学・中学・高校優勝

MC  
嶋田愛里 出場歴 小学生から数回

審判補助  
九大囲碁部 阿部健太郎部長ほか2名  
東京理科大学囲碁部 隆 敬暢

### ～県知事杯争奪戦対戦結果～

●小学生の部 (15名参加)			●中学生の部 (12名参加)			●高校生の部 (7名参加)					
優勝	松尾	伴成	東花畑小学校4年	優勝	田道	啓大	城西中学校2年	優勝	佐々木	修真	東筑高校2年
準優勝	山下	稜太	三国小学校5年	準優勝	出口	稜真	育徳館中学校1年	準優勝	若狭	光蔵	修猷館高校2年
三位	横山	巧	室見小学校6年	三位	岩重	修司	高取中学校1年	三位	三輪	真之祐	東明館高校1年生

大会OB青年棋士による多面打ち  
有名なアマチュア大会での優勝経験を持つ寺下・立光講師に小学2年生から高校2年生まで12名が挑戦した。

各人の棋力や経験に応じて、丁寧で親身の個人指導を受け、参加者は大満足。終了後もまだやりたいと去りがたいようだった。



## ココロがある。コタエがある。

誠実なココロで人と向き合い、ベストなコタエをご提案する。  
それが、創立以来ずっと変わらない西日本シティ銀行の仕事です。  
お客様の人生のパートナーとして、企業の皆さまの事業のサポーターとして。  
「九州でいちばん頼れる銀行」を目指し、西日本シティ銀行は挑戦し続けます。

西日本FH | ココロがある。コタエがある。 | 西日本シティ銀行



僕のおばあちゃんは、とても優しく明るく元気なおばあちゃんだ。生花店を営んでいて、いつもエプロンをしてテキパキと働いている。遠

福岡市立香椎第一中学校

3年 金 昌生

僕のおばあちゃん

作文の部 最優秀賞



遠賀町立遠賀中学校2年 一村 柚綺

ポスターの部 最優秀賞

今年度は662点の作文と256点のポスターの応募がありました。第一次審査、第二次審査を経て、それぞれ最優秀賞1点ずつ選ばれました。ポスターは優秀賞7点、奨励賞20点。作文は優秀賞10点、奨励賞15点選ばれました。ここに最優秀賞作品を紹介します。

『家庭の日』『オアシス運動』  
入賞作品紹介

い所にすんでいるので、年に数回しか会えないが、僕が小さいときから優しく、いろいろな場所に連れていってもらった。僕はおばあちゃんが大好きだ。

しかし、ある日おばあちゃんは自宅で転倒し頭をうった。僕はその知らせを聞いて、家族全員で急いで病院に向かった。おばあちゃんのところへ行くと、ベットに横になっていた。医者から「命には特に問題ないが、違う病気の影響でもう歩けません。」と言われた。僕は家に帰り、自分の部屋で泣いた。「あんなに元気だったおばあちゃんが自分の足で歩けない。」「一人でどうやって生活していくんだらう。」と僕はおばあちゃんのことばかり考えていた。「自分に何かできることはないのか。」「おばあちゃんがよろこぶことって何だろう。」と考えた。退院して一ヶ月後、僕はおばあちゃんの家に行った。

玄関には車いすに座っているおばあちゃんが笑顔で出迎えてくれた。ただ慣れない車いすです室内で向きをかえるだけでも大変そうだった。僕はそこでも泣きそうになってしまった。そこで僕はおばあちゃんが「泣かないで。生きてるだけで私は幸せだから。」その言葉に僕はドキッとした。かわいそうとは思わなかった僕に対して、おばあちゃんは、歩けなくてもとても前向きに生活しているんだと感じた。おばあちゃんが僕と話しているときのおばあちゃんの顔は、つねに笑顔だった。おばあちゃんが「私みたいな困った人がいたら、私と違って助けてあげて。」と言われた。僕は、笑顔で返した。おばあちゃんも笑顔だった。

僕は、中学一年の時、学校の職場体験の授業で、介護施設に三日間実習に行った。その時、ぼくのおばあちゃんのように、車いすに座っている方や杖をついている方がたくさんいたが、みんな元気で楽しそうに生活していた事を思い出した。ぼく達が車いすでかわいそうと思うのではな

優秀賞

ポスターの部

作文の部

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 福岡市立名島小学校1年生        | 首藤 隼人  |
| 遠賀町立島門小学校2年生        | 前田 紗來  |
| 遠賀町立浅木小学校3年生        | 伊藤 健志  |
| 遠賀町立広渡小学校4年生        | 近江 佳奈  |
| 直方市立植木小学校5年生        | 奈良井 梨音 |
| 遠賀町立島門小学校6年生        | 山中 涼菜  |
| 遠賀町立遠賀中学校1年生        | 藤井 伽野  |
| 粕屋町立大川小学校1年生        | 徳永 蒼介  |
| 国立福岡教育大学附属久留米小学校2年生 | 横田 和樹  |
| 柳川市立両開小学校3年生        | 池松 朋生  |
| 国立福岡教育大学附属久留米小学校4年生 | 森田 真帆  |
| 柳川市立垂見小学校5年生        | 森 滉稀   |
| みやま市立下庄小学校6年生       | 松本 涼花  |
| 芦屋町立芦屋中学校1年生        | 本多 美咲  |
| 福岡市立香椎第一中学校2年生      | 音村 悠果  |
| 柳川市立柳城中学校3年生        | 山田 和彦  |
| 県立折尾高校1年生           | 福本 侑那  |

く、体の不自由な方が笑顔で過ごせる為にどうしたらいいのだろうと考えることにした。例えば、駅などで目の不自由な人がいたら、声をかけてあげるだけで、不安が取りのぞけるのではないか、車いすの人を見かけた時段差のあるとき、少しだけ手をかして押してあげるそういう少しの思いやりが住みやすい社会を作ると思う。一人一人がちょっとずつ気にかけてあげる事が大切だと思う。

おばあちゃんの言葉のように「困った人がいたら私と違って、助けてあげて。」という気持ちで僕は、生活していきたいと思う。

今おばあちゃんは車いすになって、半年過ぎたけど、また生花店に出て働いているエプロンをつけてお客さんと楽しそうに話している。おばあちゃんは、とてもいきいきとしている。僕は、おばあちゃんがいままで笑顔で元気に過ごしてほしいと願っている。

16  
TEN  
JIN  
SKY  
HALL

西日本新聞会館16F 天神スカイホール

天神ど真ん中のホスピタリティホール

福岡・天神の多目的ホールとして「心からのおもてなし」を提供します。講演会、シンポジウム、研修会、同窓会、各種パーティー、記念行事など多目的にご利用いただけます。





事務局だより

主な行事 (H30年7月16日～11月15日)

7月	17日(火)	第7回広報部会 (以降、23、9/3、10/1、15・29、11/6・19)
	18日(水)	さわやかマラソン大会実行委員会事務局会議(以降、10/15)
	25日(水)	「育成キャンプ」実施場所下見
	27日(金)	少年の主張大会第2次審査 青連協7月常任委員会・第2回ジュニアリーダー研修企画委員会 (以降、8/24、9/7・18、10/5・16)
8月	1日(水)～5日(日)	「育成キャンプ」
	3日(金)	青少年囲碁大会実行委員会
	19日(日)	第20回県青少年囲碁大会
9月	8日(土)	少年の主張福岡県大会
	28日(金)	家庭部会
10月	2日(火)	「家庭の日」「オアシス運動」
	3日(水)	ポスター第2次審査
	5日(金)	青連協・記念誌部会(以降、29日)
	27日(土)	「家庭の日」「オアシス運動」 作文第2次審査 第28回青連協・青年リーダー養成事業
11月	13日(火)	第4回健全育成部会
	24日(土)	さわやかマラソン大会準備
	25日(日)	さわやかマラソン大会

**赤い羽根共同募金**



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

青少年育成 考

「最高の仲間との出逢い、深い絆づくり」



公社 福岡県青少年育成県民会議 理事・副会長  
北九州市青少年育成市民会議 会長  
副会長 伊藤 一義

この度、福岡県青少年育成県民会議副会長を仰せつかりました北九州市青少年育成市民会議会長の伊藤です。娘の小学校でPTAに関わるようになり、小学校、中学校、高校とずっとPTA活動をしてきました。私の母校でもある小学校で4年間会長を務めた後、北九州市PTA協議会の会長を3年間務め、2年目に九州ブロックPTA研究大会を北九州市で開催しました。たくさんの方の仲間と一緒にPTAの素晴らしい行動力の結集のもと、大会を大成功に終わることができました。と同時に深い絆が生まれたと私自身思っています。きついこともありましたが、最高の時間を最高の仲間と共有することができ、現在でも私の宝物となっています。

北九州市青少年育成市民会議では、1月の小学生を対象とした駅伝大会、3月の春休みには体験活動をメインとした春のチャレンジキャンプを活動の中心とし、大学生をこれからのリーダーとして活躍できる人材として育てようと、企画の段階から入ってもらい、企画運営と活躍してもらっています。事業で言えば、大きなものではありません。しかし、全員がボランティアで子どもたちの成長を我が子以上に思い、活動してきたメンバーです。これまでの経験を次世代へ繋げ、いつまでも青少年育成活動に関わっていききたいと思っています。

北九州市青少年育成市民会議の活動へのご支援を宜しくお願いいたします。

編集後記

早いもので2000回記念紙から1年目の2003号です。この時期の本紙は県民会議の行事が目白押しで記事には事欠かない号です。少年の主張大会は10月1日の市制移行直前の那珂川町で開催され市政移行イベントの一つとして開かれ、記念すべき大会となりました。青少年育成キャンプは熊本県天草市から阿蘇市に舞台を移し63名の参加者とスタッフ総勢85名で開催。4泊5日の野外学習は毎年様々なドラマがあり参加した小中学生には思わぬ成長や変化があるようです。この育成キャンプは県民会議にとつて年間でも最も時間とエネルギーを費やす大切な行事の一つです。今回はスタッフのご苦労も含めキャンプの様子を詳しく伝えるために紙面を増やし掲載しました。現場の空気や様子が伝えられたならば幸いです。

県民会議広報部会長 馬場 京子

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033  
福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475  
筑邦銀行福岡営業部(普通預金) 1597091  
福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569  
ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057



この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。